

海外投資家は東証 2 部で買い越し

寄稿 / 仙石誠 (東海東京調査センター マーケットアナリスト)

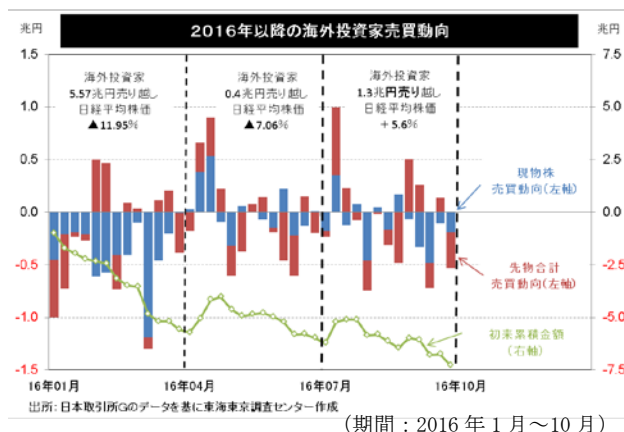
揉み合い相場が続く日本株

時間が経つのは早いもので、2016年も残り3ヵ月を切った。日経平均株価は相変わらず、16,000円と17,000円のレンジ相場が継続している。上値は重いが下値も堅く、日銀が年間6兆円ペースでETF買いを実施している効果が発揮されているようだ。日本株の上値が重い需給面での背景としては、海外投資家が日本株を売り越し傾向が継続していることが挙げられよう。新聞等では、海外投資家の日本株離れが指摘されている。今回は海外投資家動向を様々な角度から見ていきたい。

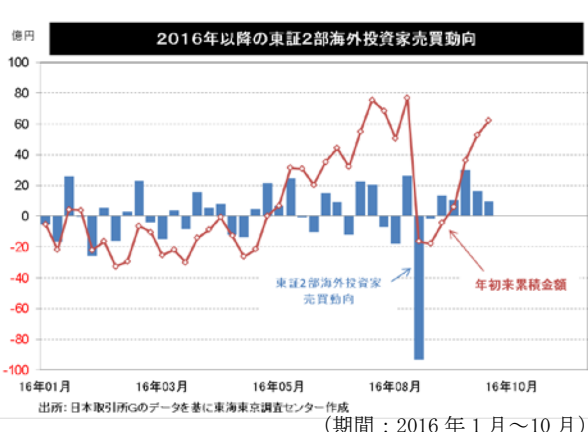
売り越し基調が続く海外投資家だが・・・

図表1には、年初からの海外投資家売買動向をまとめている。また、四半期ごとの海外投資家売買動向と日経平均株価のパフォーマンスも載せている。年初からの累積金額では海外投資家は、現物と先物合計で約7.3兆円の売り越し。ただ、四半期ごとで見ると、1-3月期が5.57兆円売り越した後は、4-6月期に0.4兆円の売り越し。7-9月期はやや売り越し金額が膨らんだが、1.3兆円の売り越しにとどまっている。筆者の見方は、1-3月期から比較すると、海外投資家の売り越し金額は徐々に落ち着きつつあると考えている。また、7-9月期は海外投資家が売り越しとなったが、日経平均株価は5.6%上昇しており、日本株は海外投資家の売り越しの中、日銀のETF買い等により、底堅い印象を受ける。そんな日本株式市場で、日経平均株価等を先行してレンジ相場を上抜けた市場がある。それは東証2部指数である。東証2部指数も長らくレンジ相場が続いていたが、9月に戻り高値を更新し、今年2月以来の高値にまで上昇している。そんな東証2部指数を押し上げているのが海外投資家である。東証2部の海外投資家売買動向を見ると、足元で5週連続の買い越し。年初からも62億円買い越しとなっている【図表2参照】。東証2部市場は先物がなく、現物株でしか取引が出来ない為、海外投資家の中長期的な日本株に対する姿勢が反映されやすい市場である。東証2部市場で海外投資家が買い越しとなっていることが、いずれ大型株等にも波及する可能性もあり、今後の動きにも注目だろう。(仙石)

《図表1: 年初来海外投資家売買動向》



《図表2: 東証2部市場の海外投資家売買動向》



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。情報の正確性には万全を期しておりますが、その正確性・完全性・将来の運用成果の予測等を保証するものではありません。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、情報提供会社等および当社は一切の責任を負いません。資産運用の際にはお客様の責任において最終的にご判断ください。この資料は、第三者への提供を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用等させることはできません。

金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料等（国内株式取引の場合は約定代金に対して上限 1.242%（税込）（ただし、最低手数料 2,700 円（税込））の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料及び信託報酬等の諸経費、等）をご負担いただく場合があります。金融商品等には株式相場、金利水準の変動等による「市場リスク」、金融商品等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合の「信用リスク」、外国証券である場合には、「為替変動リスク」等により損失が生じるおそれがあります。さらに、新株予約権等が付された金融商品等については、これらの「権利を行使できる期間の制限」等があります。なお、信用取引又はデリバティブ取引を行う場合には、その損失の額がお客様より差入れいただいた委託保証金又は証拠金の額を上回るおそれがあります。手数料等およびリスクは、金融商品等ごとに異なりますので、契約締結前交付書面や上場有価証券等書面または目論見書等をよくお読みください。

東海東京証券の概要

商号等 : 東海東京証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第 140 号
加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会